

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
E142F014		政治学特講 (Special Lecture on Politics)														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	3	教育学部			氏名 鄭 敬娥										
						E-mail jeong@oita-u.ac.jp 内線										
授業の概要	1 国際政治を分析するための理論的枠組みを習得する。 2 国際的紛争や貧困などの背景を探り、その解決のための諸試みを理解する。 3 日本とアジア諸国、国際社会とのあり方を考えながら、「市民」としての自己認識を高める。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 現代国際関係の基本的構造を理解できる。																
目標2 日本と国際社会とのあり方を考える。																
目標3 現代国際政治の主な争点について、その背景や理論的構造を説明できるようになる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 イントロダクション																
2 「主権国家体系」の成立と展開 : その歴史と内容																
3 「主権国家体系」の成立と展開 : 国際社会への影響																
4 世界大戦と「国際関係論」の始まり																
5 グローバリゼーションと国際社会の変容																
6 多国籍企業と「グローバル・スタンダード」?																
7 国際紛争の諸構造																
8 ポスト冷戦の安全保障と国際連合																
9 国境と人権1: 人権概念の歴史																
10 国境と人権2: エスニシティをめぐる諸問題																
11 国境と人権3: 「多文化社会」とは																
12 「戦後日本」の発信: 第二次世界大戦後の国際環境																
13 日本の経済成長と国際社会における役割																
14 多様化する行為体: NGO/NPO																
15 総括																
ラーニング	A: 知識の定着・確認	国際政治の諸出来事のなかで、最も興味のあるテーマを取り上げて、その歴史や背景などを調べてプレゼンテーションを行う。										工夫	その他の			
	B: 意見の表現・交換															
	C: 応用志向															
	D: 知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備 次回に取り上げるテーマについて、新聞や雑誌などから過去に争点になった出来事を調べて、自分なりに仮説を用意する。(例えば、グローバリゼーションの光と影)(15H)															
	事後 授業で扱った内容を振り返り、自分の仮説と照らし合わせて、問題点や足りなかった観点などを明らかにする。これを月一回、レポートとして提出する。学修(15H)															
教科書	適宜紹介する。授業中は毎回、資料やプリントなど配付する。															
参考書	村田晃嗣・君塚直隆ほか編『国際政治学をつかむ』(有斐閣、2009年)															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	授業の貢献度	20%														
	プレゼンテーション	30%														
	期末試験	50%														
注意事項																
備考																
リンク																
	URL															